

Newsletter

No. 39

31 August, 2010

国際音楽資料情報協会日本支部

ISSN 1347-7277

2010年総会報告・例会

6月5日 東京芸術大学 5-301教室 報告号

出席 荒川恒子、伊東辰彦、伊藤真理、稲葉良太、石田康博、加藤信哉、金澤正剛、住川頼子、関根敏子、寺本まり子、藤堂雍子、平岩寧、山田晴通、民主音楽博物館音楽ライブラリー

委任状提出 朝倉紀之、池田裕香、井上公子、植田栄子、小倉洋子、加藤修子、金井喜一郎、加納マリ、菊池修、岸本宏子、佐古純子、佐々木勉、佐藤みどり、上法茂、末永理恵子、関根和江、高橋美都、竹内道敬、土田英三郎、手代木俊一、遠山一行、長谷川由美子、樋口隆一、福中冬子、星野宏美、細田勉、正木光江、三田智子、美山良夫、森佳子、山田高誌、米田かおり、林淑姫、大阪音楽大学図書館、大阪芸術大学図書館、慶応義塾大学三田メテ'ィアセンター、国立音楽大学図書館、昭和音楽大学図書館、同朋学園大学図書館、同志社女子大学図書・情報センター、桐朋学園大学音楽学部図書館、東京音楽大学図書館、東京芸術大学図書館、名古屋芸術大学附属図書館、フェリス女学院大学図書館、武蔵野音楽大学図書館

出席 14+委任状 46 (会員総数:73 個人会員 56 団体会員 17 の過半数=37)

開会の辞:金澤正剛支部長
議長選出:荒川恒子

I. 報告事項

1) 会員異動

退会 日本近代音楽館、刈屋公延、杉本ゆり、ホアキン・ベニテズ

入会 東京芸術大学附属図書館

休会 松下鈞

2) 2009年度活動報告 (資料2 参照)

・日本近代音楽館閉館に伴う IAML 事務局住所変更について IAML 事務局住所の変更 (個人住所は、本来好ましくないが、仮に置き、打開策も検討している)を承認。

・「フレンズ」について

昨年総会において提出審議された「フレンズ」、すなわち若年層会員獲得のため、会費低減や、アトラクティブな活動の提言をしたが、昨年本部が IAML 機関誌

Fontes の電子化方針が打ち出し、本部の成りゆきも考慮せねばならず、役員会も今期は、余裕がなく、留保してきた課題と認識している。

3) 2009年度会計報告 (資料3 参照)・ 監査報告代読 (資料 3b)

II. 協議事項

- 1) 人事:事務局長代行について
事務局長代行について 役員の協力をお願いし、藤堂が代行することで了承。
- 2) 2010 年度活動計画案 (資料2 参照)
- 3) 創立 30 周年記念事業:「音楽ライブラリー養成プロジェクト(案)」(資料 4abcd 参照)

主旨解説 (伊藤真理)

図書館振興財団への申請は却下されてしまったが、非正規職員も含めた国内現状調査から初め、音楽ライブラリアンのコンピテンシをまとめ、養成について提言をしていきたい。海外調査や、国内ラウンドテーブルを別途、資金確保を検討していくことも考える、との提案があり、以下の質疑を経て、まずは関係機関に働きかけること、主題専門集団から声をあげることが急務だと考える。

質疑応答

- a. 事業期間は、来年総会前後までを目安とする。
- b. 支部規約 9 条により、委員会設置を今総会で承認いただくことになろう。
- c. 現場が目しななければならない問題と認識しており、支持したい。
- d. 研修の現状調査からコンピテンシの作成に結びつけられるのか、一般司書のコンピテンシを音楽専門分野のコンピテンシにどのように収斂されていくのか、よく見えない。非司書もアウトソーシングに含んでいるのが現状の難しさでもある。
- e. 音楽司書の社会的認識が維持されている世界でも最近減少、限定的であることも含めて、昨年度日本も図書館法が改正されたが、専門図書館員養成は、大学院生以上のレヴ

エルでの養成が求められるだろうと云われているが、一般司書養成コースの中で専門資料についての講座がなくなるなど、受け皿がなくなり、音楽資料の「場」が抜け落ちてしまっている。

f. プロジェクトの名称は、準備委員会が、適当ではないか、実施委員会ではないだろうと思える。実施以前の調査とか検証とかが必要だと思われる。

g. 養成プロジェクトに資するためには、調査委員会とか、私見ではコンピテンシの高さの恩恵を受益した経験から考えると、コンピテンシを初めに掲げてしまうことは、縛りがきつくなり先に進めなくなるのではないかと。しかし一方でただ待っていても社会的認識を確立するなどということは、外がわからず、始まらない種類の事があるので、30周年を機に、過去数十年を音楽ライブラリアンの経験者もおられるのだから、彼らから、過去のどういうことが問題なのか、調査収集しておくことも大事だろう。

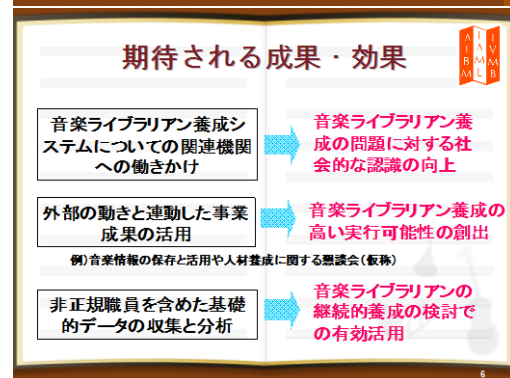
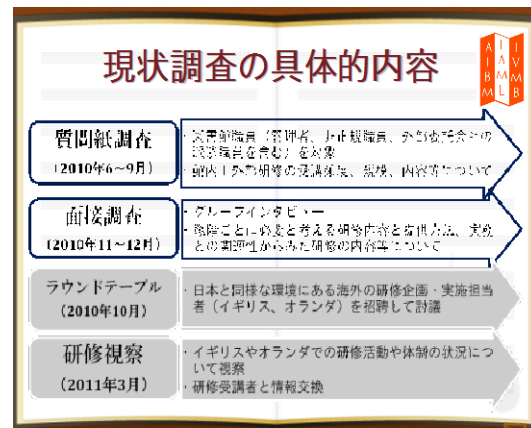
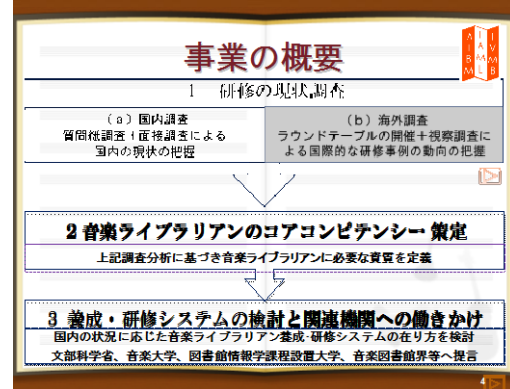
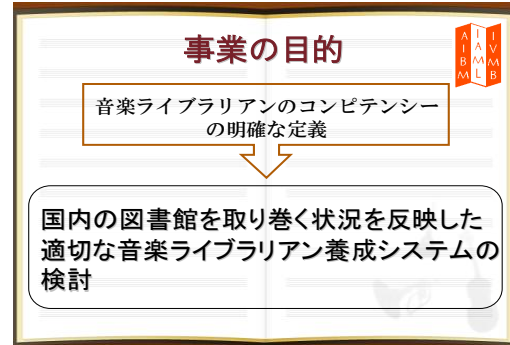
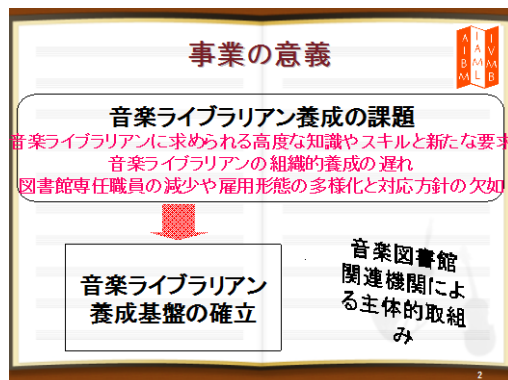
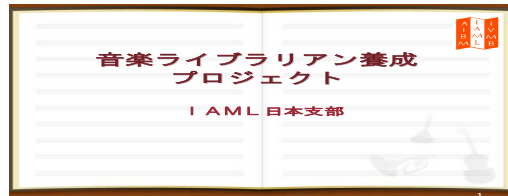
h. プロジェクト名称に関しては、持ち帰って考えてみたい。などの意見交換がなされた。

4) 2010 年度予算案 (資料 5 参照)

5) モスクワ会議代表参加者は、藤堂副支部長

III. その他

閉会の辞: 藤堂雍子副支部長



国際会議	<p>アムステルダム会議 2009年7月5日～10日 出席者：井上公子、金澤正剛、関根和江、藤堂雍子、樋口隆一、劉薇 発表者：金澤正剛(支部報告) 樋口隆一(図書館とコレクション) Mozarts Skizzenblatt in Tokyo: Eine Fundgrube zur Schaffensperiode nach seiner ersten Prager Reise 1787</p>	<p>モスクワ大会 2010年6月27日～7月2日 出席者：荒川恒子、藤堂雍子、山田晴通、代表出席者：藤堂雍子(支部報告) 発表者：Popular music in Japan 山田晴通(公共図書館部会)</p>
総会	<p>2009年6月7日(土) 会場：東京文化会館中会議室 1 内容：2008年度活動報告、決算報告と会計監査報告、支部創立30周年記念事業、フレンズ新設について審議、2009年度活動計画案、予算案審議</p>	<p>2010年6月5日(土) 会場：東京芸術大学 5-301室 内容：2009年度活動報告、決算報告と会計監査報告、2010年活動計画案、支部創立30周年記念事業：音楽ライブラリアン要請プロジェクト、予算案審議、ほか</p>
役員会	<p>1月31日(土) 東京文化会館 日本音楽学会「日本の音楽資料」調査委員会への委員推薦について、2009年度活動計画案について、支部の財政・会計について</p> <p>3月21日(土) 東京文化会館 30周年記念事業(音楽ライブラリアン育成プロジェクトについて)、会費値上げ問題について、総会協議事項について、</p> <p>5月16日(土) 東京文化会館 総会協議事項について</p> <p>11月1日(土) 東京文化会館 事務局長辞任について、30周年記念事業案について</p>	<p>1月23日(土) 東京文化会館 事務局長代行について、支部資料移管について、30周年記念事業修正案について</p> <p>4月3日(土) 東京文化会館 総会議案準備、30周年記念事業補助金申請について、第48回研究例会について、</p> <p>5月8日(土) 30周年記念事業案のMLAJ宛協力依頼状、総会資料差しかえについて、ほか</p>
研究例会	<p>第46回 6月7日(東京文化会館中会議室) 「IAML 日本支部の過去・現在・未来」 司会：加藤信哉 談話者：村井範子、井上公子、松下鈞</p> <p>第47回 11月11日(パシフィック横浜) MLAJ共催 「音楽図書館の業務委託」 No. 35 「南葵音楽文庫貴重資料デジタル化 / 伊藤真理」</p>	<p>第48回 6月5日(東京芸術大学 5-301室) 文化庁委託事業『「日本の音楽資料」のデータベース化のための調査』結果と今後の展開 司会：金澤正剛 パネラー：久保田慶一、寺本まり子、長谷川由美子、林淑姫</p> <p>第49回 (未定)</p>
Newsletter	<p>No. 36 「総会、研究例会報告 / 加藤信哉」 No. 37 「アムステルダム会議報告 / 金澤正剛、藤堂雍子、樋口隆一、関根和江」</p>	<p>No. 38 「音楽図書館の業務委託 / 伊藤真理」、 「文化庁委託事業：『日本の音楽資料』調査委員会報告 / 岸本宏子」 No. 39 総会報告・研究例会報告(予定) No. 40 モスクワ会議報告(予定) No. 41 研究例会報告、ほか(未定 2011?)</p>
HP	<p>更新合計 9回 News 4回, Newsletter 4回</p>	<p>更新小計 3回 (5月末現在) News 2回, Newsletter 1回</p>

2009 年活動報告 **2010 年活動計画(中間報告含む)**

30 周年記念事業	更新合計 9 回 News 4 回, Newsletter 4 回 「IAML 東京会議 1988 写真」ほか HP に掲載	更新小計 3 回 (5 月末現在) News 2 回, Newsletter 1 回 「音楽ライブラリアン養成プロジェクト」 ・委員会設置 ・国内調査
その他	・Fontes 掲載 「Western music collection in japan / Masakata Kanazawa / Yasuko Todo」 ・図書館年鑑 / JLA に 寄稿	・図書館年鑑 / JLA に 寄稿 ・ Fontes corresponding editor として 伊藤真理就任 (←岸本宏子会員) ・Fontes 日本の公共図書館について寄稿中 / 伊藤真理、永井靖子(東京文化会館資料室)、上妻重之(民音音楽博物館)

IAML 2009 年決算 12 月 31 日	2009 年度		予算	決算	予算決算差額	備考
2009 年度繰越金						
現金	38,238	38,238			0	
貯留金	2,052,152	2,052,152			0	
(財) 会員会費等加増助成金						¥522,000
銀行	624,052	624,052			0	
繰行 (小 計)	2,614,430	2,614,430			0	
収入						
本部会費	18,000	0			18,000	
会費 2008 年	0	0			0	
個人	6,000	6,000			0	個人 1
団体	0	0			0	
会費 2009 年	0	0			0	
個人	0	144,000			-144,000	個人 60(内多量会員 3)
団体	0	28,000			-28,000	団体 17+1
利息(2009 年)	600	221			379	
会費 2010 年	390,000	234,000			156,000	
個人	252,000	238,000			14,000	
団体	636,600	690,221			-13,621	
会員会費等加増助成金	636,600	636,600			0	
(収入小計)	3,251,000	3,284,851			-13,821	
収入総額	3,251,000	3,284,851			-13,821	
本部助成費	324,610	351,880			-27,270	TEURO=138,827YEN
予備費	40,000	25,880			14,120	
経費総額	60,000	60,000			0	
F&M 分組金	40,000	40,000			0	
F&M Fontes 編集委託費	0	0			0	PLMC 委託している Fontes のための編集に充てる
大会代金運送費 2009	100,000	100,000			0	
経費 招待会費等加増	10,000	0			10,000	
コピー代	30,000	25,013			4,987	
会費費、別会費	30,000	33,929			-3,929	
交際費	250,000	180,050			69,950	
通信費	60,000	33,050			26,950	
消耗品費	25,000	29,212			-4,212	
雑費	6,000	5,208			792	
アルバイト代	10,000	0			10,000	
HP 運営費	23,940	49,644			-25,704	デザイン制作費等 2008 年 12 月 31 日現在
(経費総額小計)	634,940	536,119			98,821	
会員会費等加増助成金	0	0			0	
支出総額	999,550	913,559			85,991	
次年度繰越金	2,251,450	2,351,292			-99,842	
現金	43,410	43,410			0	
貯留金	1,770,572	1,770,572			0	
(財) 会員会費等加増助成金			522,000			2009 年の収支明細書を監査し、相違ないことを認めます。平成 22 年 4 月 22 日
銀行	537,110	537,110			0	
繰越	2,251,092	2,251,092			0	

会計監査報告
総会ご出席の皆様

資料 3b

2010 年 4 月 22 日に、IAML 2009 年会計監査を行ないました。収支明細書を精査し、相違ないことを認めました。収入については、会費納入が順調に行われていることがわかり、大変結構なことと思います。ただし、会員数が減少傾向にあるとの報告を受けており、現在、IAML の活動が会費収入のみによって支えられていることを考えますと、尚一層の会員確保を目指す必要があると痛感します。

支出については、2009 年度への繰越金が 2,614,430 円でしたが、2010 年度への繰越金は、2,351,092 円となり、26 万円強の減額となっています。当初の予算よりは、10 万ほど多く繰り越せることになっており、役員各位が、厳しい予算の中で支出を抑えるべく努力なされたことが伺われますが、次年度につきましても、支出については、ご深慮いただく必要があります。幸いなことに、繰越金が 235 万円ほどありますので、会の活動を活性化させ、会員に期待される事業に予算が配分されるよう期するところです。

総じて、大変分かりやすい会計報告であると考えますが、ご参考までに、いくつか所見を記しました。なお、本日はスケジュール調整の関係で、総会に出席することが叶わず、口頭で監査報告ができなくなりました。会員の皆様には申し訳ないことと、心よりお詫び申し上げます。

2010 年 6 月 5 日

IAML 日本支部会計監査
関根和江

IAML2010年予算案

費目	2010年度予算	2009年度決算	差額	備考
前年度繰越:				
現金	43,410	38,236	5,174	
郵便局	1,770,572	2,052,192	-281,620	
(内 会員会費参加補助基金)				¥522,000
銀行	537,110	524,002	13,108	
(小計)	2,351,092	2,614,430	-263,338	
収入:				
未収会費	0	0	0	
会費2008年				
個人	0	6,000	-6,000	
団体	0	0	0	
会費2009年				
個人	0	144,000	-144,000	
団体	0	28,000	-28,000	
会費2010年				
個人	0	234,000	-234,000	
団体	0	238,000	-238,000	
利息	200	221	-21	
会費2011年				
個人	330,000	0	330,000	個人56(内名譽会員1)
団体	238,000	0	238,000	団体17
(小計)	568,200	650,221	-82,021	
会員会費参加補助基金	0	0	0	
(収入小計)	568,200	650,221	-82,021	
収入総額	2,919,292	3,264,651	-345,359	
支出:				
本部宛会費送金	313,486	351,880	-38,394	2429EURO/1EURO=129.06YEN
予備費	30,000	25,560	4,440	
経常経費:				
FiLM分担金	60,000	60,000	0	
FiLM Fontes編集委託費	40,000	40,000	0	
大会代表派遣費2009	0	100,000	-100,000	
大会代表派遣費2010	100,000	0	100,000	
関連団体会費参加費	10,000	0	10,000	
ニュース・レター	30,000	25,015	4,985	
会費、例会費	30,000	33,929	-3,929	
交通費	160,000	160,060	-60	役員会の開催回数増
通信費	30,000	33,050	-3,050	
消耗品費	30,000	29,212	788	パンフレット
雑費	5,000	5,209	-209	
アルバイト代	10,000	0	10,000	
HP運営費	25,000	49,644	-24,644	
(経常経費小計)	530,000	536,119	-6,119	
会員会費参加補助基金	0	0	0	2010年度は申し込みなし
特別事業費	40,000			30周年記念事業(アンケート、面接調査)
支出総額	913,486	913,559	-73	
次年度繰越	2,005,806	2,351,092	-345,286	
(内本部宛会費送金+経常経費)	843,486	887,999	-44,513	
(内 会員会費参加補助基金)	522,000	522,000	0	

特別事業費について補足:2011年度は委員会開催、報告書作成に30万円(助成金が出ない場合)

♪♪♪ 事務局だより ..# ♪

■ 会員の活動情報

会員の活動情報をお寄せ下さい

2009 年 3 月発行の第 35 号から始めておりますが、掲載に至っておりません。事務局の収集だけでは、至りませんので、自己申告を含め、ご協力いただけると幸いです。

■ IFLA2013 年

日本図書館協会と国立国会図書館が、IFLA2013 年オセアニアかアジアでの World Library Conference (WLC) 開催に向けて、横浜開催を誘致する活動に乗り出しました。要請を受け、日本支部もこの誘致歓迎のメッセージを送りました。

来 2 月には、視察団来訪し、可否が決まるとのこと。

図書館界が経済事情厳しい中で、さらに沈下することなく、図書館活動に向けて頭を上げて立ち向かっていく契機になることをねがっています。この 8 月 10 日から 15 日にかけてスウェーデン・ヨーテボリで WLC が開催され、IAML 本部から少なくとも 3 人出席、日本の国立国会図書館から 6 人が出席したと聞いています。参加総数は、3700 人との報もありました。第一報が IAML 新事務局長に決定したヨーテボリ大学音楽・舞踊アカデミー図書館長の P.シェクターらから、メーリングリストで届いています。

■ Newsletter 担当者急募

事務局では、Newsletter 担当者を急募しております。Words を使った DTP 編集などに多少心得がある方を求めています。役員会出席が義務ですが、来年総会(5~6 月)までに、あと 2 回発行を予定しております。挑戦してみようか、とお申し出下さった会員と折衝を始めております。

■ 2011 年アイルランド会議(7 月 24 日~29 日)のペーパーをプログラム委員会で求めています。締切は、2010 年 9 月末日までです。詳細は、以下の本部ホームページをご覧ください。<http://www.iaml.info/en/node/587>

■ AACR2 に変わる電子時代の目録規則となるであろう RDA (Resource Description Access) Toolkit が 6 月に刊行され、8 月末まで自由に見ることができ

ます。この音楽資料の内容について、先の IFLA WLC に参加し、LC 目録政策支援局長 B. ティレット (IFLA 専門家会議企画委員長でもある) ととも会合した M. ジャンテイルテデッキによれば、ISBD はともかく、RDA の音楽資料目録の用語などに、かなり問題があると述べています。例えば、楽譜の「Score」は、いかなる記譜法に基づく楽譜についても、一括、広義の「Score」を用いてしまっている、など多くの問題が残されていると述べています。これは、米 MLA 従来やり方を未だに踏襲している結果だと指摘しています。英米中心の目録規則でなく、国際法を目指す RDA への異議申し立てであると思われる。彼は、ISBD の非図書資料、とりわけ手稿楽譜に関して、委員会メンバーとして今後も IFLA に出席することになるようです。なお、RDA に関する近況は、国立国会図書館の電子版 カレントアウェアネス ポータルほか、以下のサイトも参考になります。

<http://current.ndl.go.jp/ca1713>

<http://www.rdatoolkit.org/>

■ 事務局への連絡

IAML 日本支部事務局は、現在、下記の住所を連絡先としております。

お急ぎのご連絡は下記事務局長代行に直接お知らせ下さいませよう願ひ致します。

事務局長代行: 藤堂

>>> Postscript <<<

総会報告号をようやくお届けできます。

よく晴れ、熱かったモスクワ大会も終わり、来年は、アイルランド、ダブリンでの年次会議になります。7 月 24 日から 29 日です。音楽遺産に出会える機会となること必至です。

次号は、研究例会『日本の音楽資料』の DB 化のための調査報告』について及び、モスクワ会議報告を予定しております (事務局)

Newsletter 第 39 号

国際音楽資料情報協会日本支部

2010 年 8 月 31 日発行

〒150-0046 東京都渋谷区松涛 藤堂気付

<http://www.iaml.jp>